

# 木曽川でタコノアシの紅葉を観察しました

技術士(衛生工学部門) 本 堀 雷 太

## 1. タコノアシとは？

タコノアシ (*Penthorum chinense*) (図1) はタコノアシ属タコノアシ科の多年草で、東アジア地域の湿地帯に分布しています。形態的特徴などから、ユキノシタ科やベンケイソウ科に分類されている文献も多く見られます。しかし、近年のゲノム解析に基づくAPG植物分類体系では、新たに独立したタコノアシ科が設けられています。

属レベルでは、東アジアと北米に2種類のみが隔離分布しており、生物地理学的な見地からも非常に興味を持たれる植物です。

“タコノアシ”の名は、茎頂から放射状に伸びる花序の枝が“蛸の足”に、花や実が“蛸の吸盤”の様に見える事に由来します。8月から9月頃にかけて花序の枝に小さな白い花が咲きます。秋になるとタコノアシは全草が紅葉して落葉するため、まさに“茹で蛸”状態になります。更に秋が深まると朔果が熟して種を宿します(図2、図3)。



結実前の個体



結実、紅葉しつつある個体

図1. タコノアシ



図2. 紅葉したタコノアシ



図3. 花序の枝の様子(左:結実しつつある状態、右:朔果)

タコノアシの葉は螺旋状に互生し、葉は細長く周縁部にあまり目立たない小さな切れ込みが見られます(図4、図5)。



図4. タコノアシの葉の生え方(螺旋状に互生)



図5. 葉の様子



## 2. 木曾川立田地区でのタコノアシの観察

かつては沼地や河川下流域のワンド、水田の畦、休耕田等の湿地でタコノアシを普通に見る事ができました。タコノアシの生育には水位の変動等の適度な攪乱が必要です(図6)。また継続的に群落を維持する為には、適度に伐採を行い人為的な攪乱を起こす必要があります。近年、湿地の消失等の影響で、タコノアシの生息環境が減少しています。また外来種のセイタカアワダチソウの侵入もタコノアシの減少に拍車を掛けています。タコノアシは現在、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧(NT)に、愛知県でも準絶滅危惧種に指定されており、生息状況の悪化が懸念されます。他方、我々がこれまで生態調査を行ってきた木曾川立田地区には、少なからずタコノアシの群落が見られます。図7に木曾川立田大橋右岸側のワンドに生息するタコノアシの様子を示します。



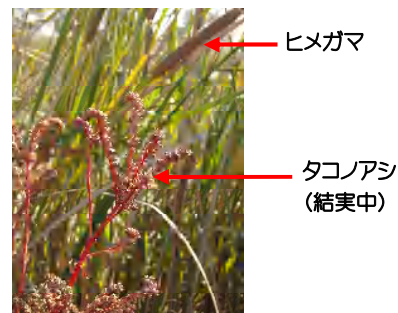
図6. 台風後の増水で水に浸るタコノアシ



①背丈の低い若いタコノアシがヨシやスキに押されるようにして群性。



②比較的大きなタコノアシの群落がヒメガマやヨシと共に繁茂していました。



③小さな群落が数か所見られた程度。セイタカアワダチソウを3株確認。



④まばらに生えている程度。立田大橋真下には若いタコノアシが群生していました。



立田大橋下からみたワンドの様子



背後にセイタカアワダチソウ(赤丸)が迫る!











図7. 木曾川立田大橋右岸ワンドに生息するタコノアシの様子



### 3. タコノアシの紅葉

タコノアシは初秋に白い花を咲かせた後、秋の深まりに伴って結実、紅葉、落葉、果実(朔果)の成熟を行い、その姿を大きく変えていきます(表1)。ヨシやススキ、ヒメガマといった地味な植物ばかりで殺風景な秋のワンドの中で、全草が真っ赤に染まるタコノアシの紅葉は実に美しいものです。皆様もお暇な折に一度、木曽川のワンドへ今や希少種となったタコノアシを見に行ってみてはいかがでしょうか。

表1. タコノアシの結実から成熟までの様子

	全 草	花序の枝	朔 実
結実 開始			
紅葉 開始			
全草 紅葉			
落葉 成熟			



★おまけの写真—いろいろな形の“蛸の足”—

